

## ■がん治療に関わる診療科

健診センター

消化器内科

外科

呼吸器外科

乳腺外科

泌尿器科

緩和医療科

放射線治療科

病理科

リハビリテーション科

## ご紹介について

地域医療連携室にてお話を承ります。

総勢8名体制で各医療機関の皆様とのパイプ役として「顔の見える連携」を目指し、前方支援業務を中心に対応しております。

ご紹介以外でも何かございましたら下記連絡先にお気軽にお問合せ下さい。



### ●地域医療連携室

【直通TEL】043-486-5511

【直通FAX】043-486-1807

(日曜、祝祭日のぞく 平日 8:30～17:00 土 8:30～12:00)

## ■交通

### 【最寄駅から】

- ・京成本線臼井駅 ちばグリーンバス(乗車時間 約10分)
- ・京成本線佐倉駅 ちばグリーンバス(乗車時間 約15分)
- ・JR佐倉駅 タクシー(乗車時間 約15分)

### 【お車をご利用の場合】

- ・東関東自動車道「四街道I.C」より約20分
- ・東関東自動車道「佐倉I.C」より約20分



社会福祉法人 聖隷福祉事業団  
聖隷佐倉市民病院

〒285-8765 千葉県佐倉市江原台2-36-2  
TEL : 043-486-5511 (地域医療連携室)  
043-486-1155 (患者さま用予約センター)  
FAX : 043-486-1807 (地域医療連携室)

# 聖隷キャンサーレター



## 巻頭言

### キャンサーレターVol.8 発行に際して

雪の多かった冬も過ぎ去った弥生3月といえば卒業式、そしてもう桜の季節です。正直なところ若い頃には特別な感情を抱かなかった桜の花にも、いつしか思い出が重なり歳をとるとやはり楽しみになりました。変な例えですが、おでんの具でも若い頃は大きく好きでなかった大根が今では一番おいしいと感じるが如し、といったところでしょうか。いろいろ経験し、あるいは卒業もしてきて好みも変化して今にいたっているのでしょう。弥生はその語源の通り新芽がでて新しいことが始まる季節です。当院での新しい取り組みとして乳腺外科でがん地域連携パスが始まったこととACPがあげられます。弥生の月に当院の新しい取り組みがご紹介できることは喜ばしいです。

がん医療支援センター長 眞崎 義隆

## 第8号 担当医・担当者紹介



乳腺外科副部長  
兼がん医療支援センター副センター長

木谷 哲

緩和医療科・乳腺外科病棟課長

石井 早苗

主な専門領域：乳腺、化学療法、緩和医療、放射線治療

- ・日本乳癌学会乳腺専門医
- ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- ・日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会放射線治療専門医
- ・日本緩和医療学会緩和認定医
- ・日本遺伝性腫瘍学会遺伝性腫瘍専門医
- ・がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修修了
- ・臨床研修指導医



乳腺外科

## がん地域連携パスの開始について

## はじめに

当院では本年1月より「がん地域連携バス」を導入し、地域のクリニック・病院との連携を開始しました。これは、平成22年度の診療報酬改定により導入された仕組み（図1）で、がん診療連携拠点病院等（当院も含まれます）で初期治療を行った後、地域のクリニック・病院と協力して患者さんを継続的に診療するシステムです。連携バスを活用することで、患者さんご自宅の近くのクリニック・病院で治療を継続でき、必要に応じて拠点病院等で診察を受けることができます。

## 乳がんについて

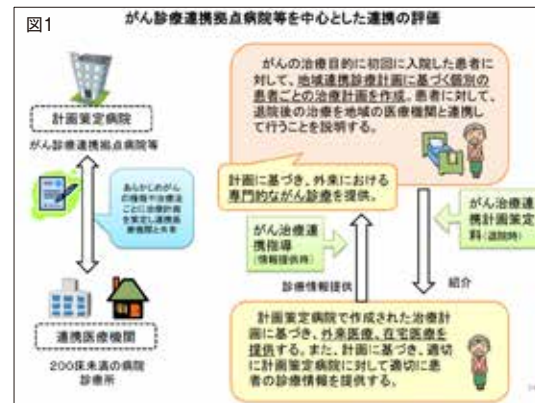
今回、がん地域連携パスの対象として「乳がん」から開始しました。

乳がんは、女性が最も罹患しやすいがんであり、2019年には日本全国で97,142例が診断されました（国立がん研究センターがん情報サービス「がんの統計2024」より）。この数値は女性のがん罹患数の中で最も多く、2010年の68,071人からの9年間で約1.5倍に増加しています。

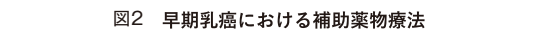
佐倉市の女性人口比を考慮すると、年間約130人が乳がんを罹患すると推定されます。同様の方法で算出すると、八千代市では約160人、印西市では約85人、四街道市では約70人、八街市では約50人と、それぞれ一定数の患者さんが罹患すると考えられます。

乳がんの治療は手術が基本ですが、近年は薬物療法的に大きく進歩しています。乳がんは大きく「浸潤癌」と「非浸潤癌」に分かれ、さらに「浸潤癌」は内分泌療法の感受性やHER2の発現状況により4つのタイプに分類されます。タイプ毎の治療の概要は図2のとおりです。

今回開始する乳がん地域連携パスの対象は、術後薬物療法がホルモン療法のみとなる方です。



厚生労働省HP 平成22年度診療報酬改定の概要より抜粋



|         |    | HER 2                    |                                                    |
|---------|----|--------------------------|----------------------------------------------------|
|         |    | 陽性                       | 陰性                                                 |
| ホルモン感受性 | あり | ホルモン療法<br>抗HER2薬<br>化学療法 | ホルモン療法<br>(化学療法)*1<br>(CDK4/6阻害薬)*1<br>(PARP阻害薬)*3 |
|         | なし | 抗HER2薬<br>化学療法           | 化学療法<br>(免疫チェックポイント<br>阻害薬)*2<br>(PARP阻害薬)*3       |

- \*1 再発のリスクに合わせて、適宜化学療法やCDK4/6阻害薬を追加します。
- \*2 診断時の臨床病期により免疫チェックポイント阻害薬を追加することがあります。
- \*3 遺伝性乳癌卵巣癌症候群と診断され、再発高リスクの場合にPARP阻害薬を追加します。

## 乳がん地域連携パスの実際について

- ## 1. 患者さんの意思確認

乳がん術後に、地域連携パスへ参加するかどうかを当院でおたずねします。

- ## 2. クリニック・病院の紹介と計画書作成

参加希望の患者さんには、連携するクリニック・病院を紹介し、「乳がん治療連携計画表・経過表(乳がん地域連携パス)」を作成します。

- ### 3. クリニック・病院での診療

乳がん地域連携バスを持参された患者さんは、経過表に基づいた診療とホルモン療法の処方を受けます。術後の検査は当院で半年ごとに実施し、それ以外の時期の処方を中心とした診療を継続します。

**地域がん連携パスへのご参加のお願い**

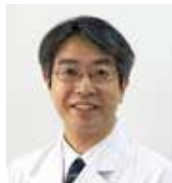
乳がん地域連携パスの開始にあたり、まず佐倉市の乳がん検診に参加されているクリニック・病院にご案内をしております。ご関心をお持ちいただけました場合には、ぜひ当院地域連携室までご連絡ください。担当スタッフが詳細をご説明に伺います。

## おわりに

がん地域連携パスは、がん患者さんが安心して治療を継続できるよう、地域のクリニック・病院と連携する仕組み

がん地域連携バスは、がん患者さんが安心して治療を継続できるよう、地域のクリニック・病院と連携する仕組みです。今後、乳がんに加え、肺がん・胃がん・大腸がんなどにも順次拡大予定です。

本取り組みへのご理解とご協力を、何卒よろしくお願い申し上げます。



地域がん連携パス担当：乳腺外科 木谷 哲

連絡先：地域連携室 043-486-5511

**緩和医療科・乳腺外科病棟**

**考えよう これからのこと** ～最期まで自分らしく過ごすために～

## アドバンス・ケア・プランニング Advance care planning (ACP) ———

人はそれぞれ人生観や思いに基づく人生設計を持って将来のことを考えています。それは医療についても同じ事が言えます。ACPは、将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、本人を主体にその家族や近い人・医療 ケアチームが繰り返し話し合いを行い、本人の意思決定を支援するプロセスの事です。本人の人生観や価値観、希望にそった将来の医療及びケアを具体化することを目標にしています。

## 当院の取り組み

当院ではACPワーキンググループを立ち上げ、2024年2月より当院で治療を受けられる方（任意）に『私の希望書』を配布しています。『私の希望書』を用いて、患者さん自身が“もしも”に備えて、その時に受けたい医療・ケアについて、ご本人の希望や思いを伺い、医療チームで共有する体制を整えました。ゼロからのスタートで、まだたくさんの課題がありますが、少しずつ患者さんのケアに繋がっている事例もあります。



今回は私が所属していた緩和医療科の入院患者さんの事例を紹介したい  
と思います。

患者さんは50代女性。地元の横浜で、20年以上ピアノ奏者として活動されていきました。今回乳がんの診断後は治療を継続していましたが徐々に体力の低下があり、ベッド上の生活となっていました。当院へはご家族が市内に居られる関係で緩和医療の継続目的で転院されてきました。患者さんと様々な対話を重ねる中で、『もう一度ピアノを弾きたい。みんなに聴いてもらいたい』と希望を話されるようになりました。早速何年も目の目を見ていなかった当院のピアノを調律していただき、練習を開始しました。医師とは痛みや熱、患部の出血コントロールについて薬や治療の調整を行い、PTにはリハビリの中でもピアノ練習時間をつくっていただきました。放射線治療科では、治療時間の調整をしていただき、多職種で患者の目標達成に向けて情報を共有し、協働することで2024年12月25日に当院6階ホールにてクリスマスコンサートを開催することが出来ました。患者さんのお友達にも御協力をいただき、素敵な歌とピアノ演奏が行われ、当日は入院患者やその家族、患者さんの友人、家族、当院の職員を含めて80名ほどの観客が集まりました。観客の中には感涙している方もおられ、とても素敵なコンサートでした。何より患者さん自身が『こんなにたくさんの方に聞いてもらえてよかった。痛みも忘れて集中できました。』と話され、私たち看護師も患者さんが目標に向かい、日に日に表情が明るく過ごしている姿を見て、とても嬉しく感じる事が出来ました。



## つなげよう患者さんの思い

がん患者さんへの継続的なかわりはとても大事です。当院ではがん看護外来や緩和ケアサポートチームがあり、看護師が外来や病棟で関わりつつ患者や家族の思いを橋渡ししています。今後は在宅や地域へも継続していけるように取り組んでいきたいと考えています。

緩和医療科・乳腺外科病棟課長 石井 早苗